主査參事官附記・

一、本件の内容は理由ありて實質上是認せらるべきものなるも經常部に於ける總領事及領事（司法職員を除く）が現在一一二人の定員中一五人の缺員あるを以て（別添七月八日現在定員現員表參照）右缺員の補充を見るに至る迄差當り本件増員を差控ふることとした・補充後は直に本件を分離して閣議に呈出するを至當と考ふる・

二、尤も原案者側は本件増員を極めて重要視し之が人員の急速なる配置を望んで居るので法制局は便宜本件増員のポストを使用して前掲の缺員補充を行ふことを認めた・此の方法を採るに於ては差當り經常の人員を本件のポストに使用し缺員補充後本件臨時職員設置制中改正が公布さるると同時に右の職員を臨時に振替ふることと爲る・

外務臨時職員增置說明書

外務省

教育領事、特別任用令中改正、仆何記
参照。

17

南洋ニ於ケル教育事務專任職員設置ニ關スル說明書

在南洋邦人ノ發展ヲ助長シ帝國ト南洋トノ文化的經濟的提携ヲ促進シ以テ南洋ヲ含ム大東亞圈ノ確立强化ニ資スル上ニ於テ子弟ノ教育問題ハ極メテ重要意義ヲ有スルハ論ヲ俟タサル所ナリ、而シテ南洋ニ於ケル指定小學校ハ三十三校ニシテ兒童四千名ヲ超ヘ教員數二百名ニ達シ居リ之等小學校教育ノ改善刷新ヲ圖リ父兄ノ子弟教育上ノ不安ト苦痛ヲ除去スルト共ニ子弟ヲ優秀ナル第二世トシテ練成シ南方國策ノ遂行ニ寄與セシムル素地ヲ養成スルコトハ極メテ必要トスル所ナリ、而シテ之カ爲ニハ優秀ナル教員ノ派遣、教員ニ對スル指導督學ノ徹底、教員相互ノ研究、打合竝ニ相互援助ノ實施等ハ速急實現ノ要アル處之等各事項ノ實施上遺憾ナキヲ期スル爲ニハ指定小學校ニ對シ直接監督ノ任ニ在ル在外公館ヲシテ學校ノ監督指導ニ當ルヘキ適當ナル機構ヲ整備セシムル必要アリ、

現在南洋ニ於ケル各公館ノ教育監督ニ關スル實情ヲ見ルニ公館長ハ

(日本標準規格B5)

何レモ教育ニ理解ヲ有シ之カ改善ノ必要ヲ痛感シ居レリト雖モ館務繁忙ノ傍、學校經營、教育方法等ニ關スル指導竝ニ教員ニ對スル監督等細目ニ亘リ遺漏ナキヲ期スルコト不可能ニシテ館員中ニ學校督學ノ手腕ト識見ヲ有スル者ナキ爲、自然在外公館ノ邦人子弟教育ニ對スル指導監督ハ殆ンド有名無實ニ歸シ居ル次第ニシテ其ノ結果日本人會ハ恰モ教員ヲ使用人視シ教員ハ無監督ノ儘ニ放任セラレテ學校ヲ私有物視スル觀念強ク斯クテハ南洋ニ於ケル指定小學校教育ノ使命達成モ期シテ望ムヘカラサル現情ナリ敍上ノ理由ニヨリ、「パタヴイア」、「マニラ」ニ夫々教育領事各一名ヲ設置シ以テ教育ニ關スル使命達成上遺漏ナキヲ期セントスルモノナリ

外務省

在外職員增置說明書

外務省

本件ニ付テハ別途枢密院ニ御諮詢中ノ「タイ」国公使館昇格ニ関スル件ノ参照説明資料ニ詳記アリ。

20

一、タイ國公使館昇格ニ關スル件

東亞ニ於ケル獨立國タルタイ國ヲシテ東亞新秩序ノ建設ニ參加セシムルコトハ我方對タイ國外交政策窮局ノ目的ナル處恰モ(一)最近日タイ兩國間ニハ友好親善條約ノ調印ヲ見タルノミナラスタイ佛印國境紛爭ノ調停成立ニ依リ同國ニ對スル我指導力モ愈々加重シ來ルト共ニ(二)同國ニ對シ從來偉大ナル勢力ヲ有シタル英國カ歐洲戰爭ノ結果頗ル窮境ニ立チ東亞ニ於ケル其ノ國威ヲモ失墜セル事實アリ仍テ此ノ機ニ乘シ同國ヲシテ右本邦側ノ目的トスル方向ニ誘導スル一手段トシテ(一)我方ヨリ進ンテ同國ノ國際的地位ノ向上ヲ承認スルト共ニ(一)タイ國ハ同國革命以來鋭意國政ヲ整備シ其ノ國力增進シツツアリカ(二)他ノ諸國ニ卒先シテ公使館ヲ大使館ニ昇格スルコトニ依リ日本カ同國外交ノ指導的立場ニ立ツモノナルコトヲ同國及關係諸國ニ印象付クルコト極メテ緊要ナリ依テ左記職員ヲ增員セントス

大使　(一)大使ハ定員ニ關係ナキモ參考ノ爲

(日本標準規格B5)

14

參事官　一
一等通譯官　一
書記生　二

康亜英蒙國ニ於ケル「ダイ」国ノ重要性特ニ大ナルヲ認メ特ニ參事官ヲ配置ス

現在　在秦国帝国公使館ニ配置シアル職員左ノ通。

一等書記官　二名
二等書記官　一名
三等書記官　二名
商務書記官　一名
外交官補　一名
書記生　七名
通譯生　三名
電信書記生　一名

右ハ過去ノ原議ニ照シ正當ノ配置ナリヤ否ヤ明ナラズト雖モ現状ヲ始ノ是認ス

（代名　別紙ノ通。）

（日本標準規格B5）

2/12.

○在「タイ」國公使館々員表（七月一日現在）

特命全權公使二、三	二見甚郷	
一等書記官、（三）	内山清	
同　（三）	浅田俊介	
三等書記官五、一	谷口卓	過日二等書記官昇進ス
同　六、二	天田六郎	兼副領事
同　六、二	浦部勝馬	
商務書記官四、一	田澤丈夫	
外務書記生　七、三	市橋和雄	
書記生　五	林迺恭	
同　七	片柳昌平	
同　七	長尾昌次	
同　七（乙）	浅井武男	
同　七（乙）	谷口善三郎	

（日本標準規格B5）

21.3

同	西野順治郎
同	青木治夫
通譯生	白坂義直
同	内藤誓樹
同	沖實雄
電信書記生	相曾嘉雄

八
十
五
六
六
九

外務省

(日本標準規格B5)

參照

2114

人普通第七九二號

昭和十六年七月八日

外務大臣官房人事課長

宮內法制局參事官殿

在「タイ」國帝國公使館ノ大使館昇格ニ關スル件

本件ニ關シ豫テ御審議中ニ有之處今般泰國政府ニ於テハ帝國公使館ノ大使館昇格ト同時ニ何時ニテモ在帝國「タイ」國公使館ヲ大使館ニ昇格スルコトニ異存ナキ旨在「タイ」國二見公使ニ對シ確約スル所有之タルニ付右爲念通知申進ス

外務省

(日本標準規格B5)

漢口総領事館ノ分館トシテ開設ス。

22

二、大冶分館開設ニ關スル件

副領事 一
書記生 二 増員

大冶附近ニ於ケル在留邦人數ハ本年五月現在約一千五百名（昨年同期ハ約九百名）ニ達シ更ニ増加ノ傾向ニ在リ大冶鐵山ヲ運營中ノ日本製鐵其他ノ各社（別表一參照）職員ヲ中心トシ雜貨食糧品商飲食商等ヲ主トスルモノナルカ同地方ノ秩序回復ニ伴ヒ各種組合團体等ノ設置モ計畫セラレ居リ（既設團体ニ付テハ別表二參照）又豫テ設立準備中ナリシ居留民會モ昨年十二月設立セラレタル關係上之等各種團体ノ適切ナル指導監督ノ必要アル一方同區域内ニハ大冶鐵山ヲ始メ象鼻山尖山、紀家絡鐵山及石炭石灰其ノ他ノ鑛山資源豐富ニシテ又麻、甘蔗、米穀等ノ農産資源ニモ惠マレ之等資源開發ニ伴フ支那側機關トノ折衝等輻輳シ居リ搗テ加ヘテ同地ヘハ日鐵鑛石積取ノ爲東亞海運其ノ他ノ汽船ノ寄港多ク（別表三參照）（尚本年度ハ昨年度ノ約四倍百萬屯積取豫定）必然的ニ船舶事務モ多端ヲ極メ居ルヲ以テ是等事務處理ノ爲緊急分館ノ開設ヲ必要トセル次第ナリ

（日本標準規格B5）

別表一

大冶附近主要本邦商社表

商號	營業所	業種別	資本金	設立年月日
日鐵大冶鑛業所	大冶縣石灰窰	鐵鑛採掘業	二千萬圓	昭一三、一一、五
大冶煤礦公司	右同	石炭採掘業	二百萬圓	昭一五、三、一
間組大冶營業所	右同	土木建築請負業	三百萬圓	昭一四、一二、二
大同組大冶出張所	右同	右同	三十萬圓	昭一四、一二、一
日華麻業株式會社石灰窰出張所	右同	麻買付	百萬圓	昭一四、八、一三
湖北湖西干甘藷買入組合	右同	甘藷買付	二百萬圓	昭一五、一一、二
日本郵船大冶出張所	右同	船舶運輸業	（本社一億六百二十五萬圓）	昭一三、一一、二五

外務省

（日本標準規格B5）

別表二

諸團体調査表

名稱	設立年月日	代表者	會員數	組織及維持方法
邦人側大冶居留民會	昭和十五年十二月二十三日	齋藤壯一	五七〇	大冶縣石灰窰鐵山補・下陸黃石港ノ在留邦人ヲ以テ組織ス維持方法ハ民會規定第二七二八二九三〇三一條ニ依ル
大日本國防婦人會石灰窰支部	昭和十五年三月六日	神戸靜子	一八	石灰窰在留日本婦人ニシテ大日本國防婦人會ノ主旨ニ贊同スル者ヲ以テ組織ス維持方法ハ會費及寄附金ニ依ル
日鐵防衛團消防班				日鐵大冶鑛業所員ヲ以テ組織ス

(日本標準規格B5)

支那人側	石灰窰興亞婦人會	大冶縣城內興亞婦人會	武漢青年協會大冶支部	
參照。	昭和十五年四月十五日	昭和十五年四月十六日	昭和十五年六月十五日	
	劉亞貞	張英	張宜臣	
	三〇〇	五〇	四〇〇	
	石灰窰ニ於ケル中國婦人ヲ以テ組織及維持方法ハ縣政府ノ補助金竝ニ寄附金ニ依ル	大冶縣城內ノ中國婦人ヲ會員トス維持方法右ニ同シ	大冶縣々長ヲ支部長トシ城內青年ヲ以テ組ス本部及縣政府ノ補助金ニ依リ維持ス	

(日本標準規格B5)

別表三

鑛石積取船入出港及積載噸數統計表（昭和十五年中）

船名	航海數	積載噸數	船名	航海數	積載噸數
松浦丸	五	二二八二〇屯	盛岡丸	三	一三〇二〇屯
陸軍御用船	六	八二九〇	神盛丸	三	一六七四〇
八海山丸	四	一六四七〇	秋田丸	三	一二五〇〇
大榮丸	四	一二四三〇	第二福榮丸	三	七一四〇
神洋丸	四	一七七三〇	豐浦丸	二	六一五〇
若松丸	四	一四一六〇	吳竹丸	二	四五八〇
立春丸	三	一七〇五〇	松榮丸	二	三五九〇
日滿丸	二	四四五〇	辨加拉丸	一	七〇七〇
天山丸	一	二八五〇	海洋丸	一	七六三〇
山形丸	一	五一七〇	錫蘭丸	一	四四四〇

外務省

27

富瑞	山丸	一	八九〇〇屯	東泰丸	一
光丸		一	五八五〇	計	五八
					二二三二〇〇
					四一七〇屯

外務省

極秘

参照。

現に公館の存する他の各地との比較資料。

2712

在留邦人人口概計表

（昭和十六年四月現在）

館名	人口	備考
上海（總領事館）	七五、一三一	
南京（〃）	一〇、八四九	
漢口（〃）	八、四二七	
蘇州（領事館）	一、八四〇	
杭州（〃）	二、一五四	
蕪湖（〃）	一、四五五	
九江（〃）	一、一三〇	
包頭（分館）	一、八七五	副領事一名書記生二名

外務省

（日本標準規格B5）

2713

⓪

唐山（分館）	二、一三二	副領事一名書記生二名	
新浦（〃）	一、一五	副領事一名書記生一名	
威海衛（〃）	一四〇	副領事一名書記生二名	
坊子（出張所）	七六九	〃	（石炭）
張店（〃）	一、二〇一	〃	（石炭）
博山（〃）	三五四	〃	（石炭）
太冶（漢口分館）	一、五〇〇	〃	（鐵鑛）
豐臺（河北省）	一、五五五	警察分署	
保定（〃）	一、五三〇	〃	
彰德（河南省）	一、二四二	〃	
臨（山西省）	一、三七二	〃	

外務省

（日本標準規格B5）

2714

運城（山西省）	一、一二九	一、	警察分署
陽泉（〃）	一、一〇八	〃	
臺東鎮（山東省）	一、五〇三	警察派出所	
四方（〃）	一、六七八	〃	
滄口（〃）	一、四〇一	〃	
鎮江（江蘇省）	一、〇九八	警察署	
蚌埠（安徽省）	一、〇八四	〃	
無錫（江蘇省）	一、〇三八	警察分署	
武昌（湖北省）	一、一七〇	警察署	

（日本標準規格B5）

主査参事官附記

現在総領事及領事（司法職員を除く）の定員一一二名中候員一五名存在するを以て領事の増員は右補充完了迄差當り之を認めず。尤も右候員の補充に伴のポストを用ふることを認む。

三、デイリー領事館新設ニ關スル件

領事 書記生 一 二 増員

我南進政策ノ唱道セラレテヨリ以來年ヲ閲スルコト既ニ久シト雖未

對處シ新東亞建設ノ

時キ乍ラモ速ニ南洋

ノ一環タラシムルコ

ハ各種熱帶農林業、

鑛業、貿易ノ經營ニ付各種好條件ヲ具備スルノミナラス此ノ地ニ地

歩ヲ占ムルニ於テハ四圍ノ蘭印、濠洲等ニ對シ、經濟上政治上ノ有

力ナル據點ヲ獲得スルコトトナリ、我南方政策遂行上極メテ重要ナ

ル意義ヲ有スル次第ニシテ今ヤパラオトデイリー間ニ定期航空路開

設ノ運ヒトナリ帝國ト葡領チモールノ關係ハ愈密接ナラントシツツ

アリ

仍テ葡領チモールノデイリーニ領事館ヲ新設シ南方ニ於ケル我勢力

扶殖ノ據點タラシメントスルモノニシテ右新設ノ必要ナル理由ヲ左

外務省

（日本標準規格B5）

22

28

ニ、ディリー領事館新設ニ關スル件

領事
書記生
一
二
増員

我南進政策ノ唱道セラレテヨリ以來年ヲ閲スルコト既ニ久シトシテ雖未タ其ノ實舉ラス從テ現下ノ急變セル世界政局ニ對處シ新東亞建設ノ大業完遂ノミナラス世界新秩序政策遂行上、遲蒔キ乍ラモ速ニ南洋經濟ブロックヲ確立シ之ヲ日滿支經濟ブロックノ一環タラシムルコトノ緊要ナルコト言ヲ俟タス抑々葡領チモールハ各種熱帶農林業、鑛業、貿易ノ經營ニ付各種好條件ヲ具備スルノミナラス此ノ地ニ地歩ヲ占ムルニ於テハ四圍ノ蘭印、濠洲等ニ對シ、經濟上政治上ノ有力ナル據點ヲ獲得スルコトトナリ、我南方政策遂行上極メテ重要ナル意義ヲ有スル次第ニシテ今ヤパラオトディリー間ニ定期航空路開設ノ運ヒトナリ帝國ト葡領チモールノ關係ハ愈密接ナラントシツツアリ

仍テ葡領チモールノディリーニ領事館ヲ新設シ南方ニ於ケル我勢力扶殖ノ據點タラシメントスルモノニシテ右新設ノ必要ナル理由ヲ左

外務省

22

ニ詳論スヘシ

〜政治的理由

葡領**チモール**ハ南緯八度三十二分東經百二十五度三十五分ノ間ニ位シ蘭領ト折半スル**チモール**島ノ東半部ヲ占メ面積一萬九千平方粁（我四國ノ面積ニ當ル）人口約五十萬自治行政カ布カレ葡萄牙本國政府ノ任命スル總督ニ依リ統治セラル、葡國政府ハ英佛蘭諸國ノ暗躍モアリテ殖民地確保ニ專念シ我邦人ノ發展ヲ警戒シ來レル處支那事變特ニ廣東陷落ヲ契機トシ其ノ極東殖民地ノ維持上我國ノ態度ヲ無視シ得サル現實ヲ認識シ漸次軟化シ來レルハ事實ニシテ南洋興發會社ノ既存SAPT會社トノ合辨會社設立問題ニ關シテモ好意ヲ寄セ之カ改組設立ニ同意セル外最近葡國殖民大臣ヨリ日本ノ**チモール**開發ヲ歡迎スル誠意ノ表現トシテ**チモール**全地ニ亘ル石油以外ノ鑛物資源ノ開發、**チモール**ヘノ航路竝ニ航空路

外務省

（日本標準規格B5）

ノ開設ヲ提案シ來レルハ其ノ一證左ナリト見ルコトヲ得ヘシ、然レ共他方日本ノ獨占的進出ヲ警戒シ居ルコトモ事實ニシテ石油開發利權ニ關シテハ第三國資本ヲ歡迎シ居ル模樣ニテ昨年六月中旬ニ至リ葡濠合辨ノ葡國海外石油開發會社（Companhia Ultramarina de Petroleos）カ設立セラレタル旨突然葡國官報ニ發表セラレ同社ハ其ノ後全**チモール**石油ノ獨占的開發ヲ出願セル趣ナル處、改組前ノSAPTモ少シク遲レテ出願シタルモ濠洲政府ノ妨害モアリ十月ニ至リ葡國政府ハSAPTノ出願ハ之ヲ却下シ前記石油會社ニ對シテ石油試掘權ヲ許與セリ、本件ハ目下出先官憲ヲシテ葡國政府ニ折衝セシメツツアル處殖民大臣ノ態度ニ誠意ヲ缺クモノアリ、加之最近ニ於テハ前記石油會社ノ外白耳義資本モ**チモール**西部地區ニ於テ活動ヲ開始シ又 Companhia do Fomento de Timor（資本金二萬五千磅）ノ設立計畫進行中ニテSAPTノ活動ハ封セラレントスル虞アリ斯ノ如ク葡國政府ノ態度ハ樂觀ヲ許ササルニ付速

外務省

ニ**ディイリー**ニ帝國領事ヲ駐在セシメテ總督其ノ他**チモール**官憲トト緊密ナル接觸連絡ヲ計リ在葡國帝國公使ト相呼應シテ當局ノ誤レル認識ヲ是正セシムルコト肝要ナリ

我南進政策特ニ對蘭印政策ノ實擧リ居ラサル原因ノ一ハ蘭印政府ノ各種制限措置ニアル處幸ニシテ葡領**チモール**ニ於テハ入國乃至輸入制限モナク邦人ハ自由ニ活動シ得ルノミナラス葡國政府モ前記ノ通或程度我政策ニ迎合的態度ヲ持シ居ルニ付邦人ノ發展邦品市場ノ擴張、日葡親交ノ改善ノ爲領事館ヲ設置シテ其ノ機能ヲ充分發揮セシメ旁々蘭印及濠洲ヲ牽制セシムルコト時局柄特ニ必要ナリ

二、經濟的理由

葡領**チモール**ノ首都**ディイリー**ハ自然ノ地形ニ惠レタル良港ニシテ且堅固ナル海軍根據地タルヘキ資格ヲ具ヘ濠洲爪哇間ノ定期船ヲ初メ同港ヨリ五哩ヲ隔陷ツル**キツセル**海峽ヲ航行スル諸船舶ヲ一

(日本標準規格B5)

望ノ中ニ監視スルコトヲ得、人口二千（内日本人十名）政治、經濟ノ中心地ニシテ總督府、市役所、銀行諸商社及病院アリ、貿易モ盛ニ行ハレ居リ澳門、**ディリー**航路及蘭印K、P、M汽船會社ノ定期寄港地ナリ葡領**チモール**ノ地勢ハ山野ノ變化ニ富ミ廣表四十粁ニ亘ル平原モアレハ高度二千九百米ニ及フ山岳アリ又火山多クシテ鑛脈ニ富ミ河川モ多ク土地肥沃ニシテ熱帶及溫帶農產物ノ栽培ニ適ス農產物トシテハ珈琲、**コプラ**、護謨、**カカオ**、米、規那、綿、玉蜀黍、蠟、染料材、水牛皮、**サンダーロ**（檀香木）ヲ擧ケ得ヘク林產物中白檀ハ特ニ有名ナリ。牧畜又盛ニ行ハル、鑛業トシテハ砂金ノ外金、**クローム**、銅、鉛及滿俺ノ鑛脈アリ特ニ金及**クローム**ハ有望ナリト推定セラル。又石油ノ埋藏量豐富ナリ。**チモール**近海ハ魚類豐富ニシテ將來性アリ、**チモール**ニ活躍スル邦人會社ハ南洋興發會社ノミニシテ其ノ投資額ハ二百六十萬圓ニ達シ居レリ卽チ同社ハ昭和十二年九月同島ノ代表的會社）

外務省

Agricola Patria et Trabalho Ltda

（SAPT）ト合辨（但シ加入及資增ノ形式ニ依ル）シテ日葡合辨會社SAPTヲ設定シ更ニ葡國政府ノ要望ニヨリ昭和十四年七月葡國國立海外銀行 Banco National Ultramarino（BNU）ヲ加入セシメテ其ノ資本金ヲ貳百萬**パタカ**（邦貨二百拾萬圓）ニ增資セルカ出資金ノ割合ハ南興四〇％（外ニ二百萬圓ノ權利金ヲ出資セリ）舊SAPT五二・五％、BNU七・五％トナリ居ルモ南興ハ實質上過半數ノ議決權ヲ獲得セリ

本社ノ事業ハ土地開拓、移民ノ入植、棉花、珈琲、護謨其ノ他ノ農企業、島內外ノ交通企業竝ニ鑛物資源ノ開發及貿易ナリ、**チモール**ノ貿易額ハ別表ノ通僅少ナルモ同島ノ開發ト共ニ增大スルコト言ヲ俟タス

葡領**チモール**ノ貿易額（單位千**パタカ**）

（一**パタカ**ハ邦貨一圓十錢）

（日本標準規格B5）

年度	輸出	輸入
一九三六年	四八一	一〇六四
一九三七年	九二四	七二九
一九三八年	推定 一〇九〇	推定 七三〇

主要貿易國＝蘭印及葡萄牙

主要輸出品＝珈琲、**コプラ**、白檀、蜜蠟、水牛皮、護謨、**カミン**

主要輸入品＝捺染綿布、晒綿布、石油、**ガソリン**、葡萄酒、小麥粉、砂糖、建築材料、酒精、麥酒、絹物、石鹸

本邦トノ貿易

本島ノ對日貿易額ハ一九三四年迄ハ輸出入額合計二萬**バタカ**程度ニ過キサリシカ一九三五年及三六年ニハ四萬乃至五萬**バタカ**ニ達シ一九三七年ニハ一躍二十萬**バタカ**ヲ超過シ一九三八年ニハ三十二萬八千**バタカ**トナリ、一九三九年ニハ五十二萬**バタカ**トナレリ、最近三

(日本標準規格B5)

ケ年ニ於ケル日本ノ輸出入額ヲ示セバ左ノ如シ（單位千圓）

年次	輸出	輸入	備考
一九三七年	一一六	九六	
一九三八年	八五	二四三	南興取扱分
一九三九年	二六〇	三一〇	

主要輸入品ハ珈琲、白檀、蜜蠟、コプラ

主要輸出品ハ綿布、雜貨、建築材料

本島ノ對日貿易額特ニ日本ヨリノ輸入額ハ數字ニ現ハレ居ル以外ニ相當アル見込ニシテ右ハ本島ノ輸出入カ第三國ヲ經由シテ行ハレ居ルカ爲ニシテ蘭印、新嘉坡及香港等ヨリ輸入セラレ居ルモノ相當多額ニ達シ居レリ

過去三ヶ年ニ於テ本島ノ對日貿易カ異常ナル發展ヲ示セルハ我南洋興發會社カ同島ニ進出シテ直接彼我ノ貿易ニ携ハリ前記第三國經由ヲ匡正セル爲ナリ

（日本標準規格B5）

要之葡領チモールハ蘭印ノ中樞ニ位シ南洋諸島中葡領トシテ特異的存在ヲ有シ將來太平洋ヲ繞リ戰禍發生スルトスルモ葡國ノ國際的地位ニ鑑ミ同國ハ中立ヲ飽迄堅持スヘク從テ當地ニ設置セラルヘキ領事館ハ情報蒐集其ノ他軍事上、政治上諸般ノ工作ヲ施シ得ル據點タリ得ルノミナラス資源豐富ニシテ開發ノ將來性アルヲ以テ列强ハ當領ノ重要性ニ異常ノ注目ヲ爲シ就中英米濠蘭ノ諸國ハ特ニ日本ノ當領進出ニ神經過敏トナリ事毎ニ防害ヲ加ヘントナシツツアル現狀ナリ。太平洋爭覇戰ノ正ニ酣ナラントスル時速ニ此處ニ領事館ヲ設置シテ帝國ノ確乎タル地歩ヲ築キ以テ利權ノ伸張、物資ノ確保竝ニ市場開拓ニ萬全ヲ期スルハ刻下ノ急務ナリ。加之當領ハ在スラバヤ帝國領事館ノ管下（近ク在マカツサル領事館ノ管轄トナル）ニアレ共政情竝ニ經濟事情ヲ異ニスルヲ以テ館務繁忙ノ折柄之カ調査研究ハ到底不可能ナル爲僅ニ在葡國帝國公使カ當領ニ關スル重要案件ノミヲ臨時處理シ居ルニ過キス（嘗テ當領ニ於ケル重要利權獲得問題ニ

（日本標準規格B5）

付總督ト折衝ノ爲在メナド帝國一領事ヲ出張セシメタルコトアルモ斯ル應急的工作ハ何等得ル所ナシ）斯クテハ前記ノ如キ急迫セル國際政局ニ對處スル所以ニアラス仍テデイリーニ領事館ヲ新設シ專ラ葡領チモールヲ管轄セシメント

参照

372

人普通第七九一號

昭和十六年七月八日

外務大臣官房人事課長

宮内法制局參事官殿

「チモール」島「ティリー」ニ帝國領事館開設ノ件

本件ニ關シ豫テ御審議中ニ有之處五月中旬既ニ葡萄牙國政府ハ本件帝國領事館新設ニ異存ナキ旨在葡國千葉公使ニ確約シ居ルニ付右爲念通知申進ス

外務省

(日本標準規格B5)

四、在外電信職員增員ニ關スル件

大使館電信官 一
電信書記生 九 ｝增員

右增員ハ國際情勢就中東亞共榮圈ニ於ケル情勢ノ激變ニ對處セントスルモノニシテ對米關係ノ變化ニ伴ヒ本邦ト南米諸國トノ關係ハ特ニ重要トナリツツアル處其ノ南米ニ於テ特ニ本邦トノ關係深キ伯剌西、廣東、上海、南京、香港及河內ハ所謂セシムル爲茲ニ電信地方ナルヲ以テ重要主査參事官附記

一、「本邦ト南米諸國トノ關係ハ特ニ重要トナリ」

客年在亞帝國公使館の昇格に關する件に附記したるが如く南米諸國は米國の外交政策を側面から牽制し得る有力なる據點と爲り文之を側面から監視する望樓とも爲るのである。

二、上海、天津、廣東には昨年既に電信書記生各一を配置し今年又更に各一を加ふることと爲るが昨年分は所謂「オバレター」をカモフラージュせる書記生で今回增員の分が眞正の「コード、オフィサー」と爲る譯である。

南京、天津、上海、廣東ノ各大使館ニ電信官ヲ配置スル電信書記生ヲ配置シテ同地所在ノ公館ニ於ケル電信事務ハ益々繁劇ヲ加ヘツツア支外交ノ地方的中心

(日本標準規格B5)

38

四、在外電信職員增員ニ關スル件

大使館電信官一
電信書記生九
増員

右增員ハ國際情勢就中東亞共榮圈ニ於ケル情勢ノ激變ニ對處セントスルモノニシテ對米關係ノ變化ニ伴ヒ本邦ト南米諸國トノ關係ハ特ニ重要トナリツツアル處其ノ南米ニ於テ特ニ本邦トノ關係深キ伯剌西爾ニ我カ對南米通信ノ中心ヲ置キ時局ニ善處セシムル爲茲ニ電信官一名ヲ配置セントスルモノナリ

電信書記生ハ**バタヴイア**、**マニラ**、香港、河內、廣東、上海、南京、北京及天津ヲ豫定シ居ル處**バタヴイア**、**マニラ**、香港及河內ハ所謂共榮圈內ニ在リ我カ國策遂行ノ中心トナルヘキ地方ナルヲ以テ重要電報ノ發受增加シツツアルニ付專門的智識ヲ有スル電信書記生ヲ配置シ館務ノ遂行ヲ完璧ナラシメントスルモノナリ

又北京、南京、天津、上海、廣東ハ各々我カ對支外交ノ地方的中心地ニシテ同地所在ノ公館ニ於ケル電信事務ハ益々繁劇ヲ加ヘツツア

(日本標準規格B5)

32

ル實情ニ鑑ミ電信書記生各一名ヲ配置セントスルモノナリ
尚十五年度ニ於テモ上海、天津、廣東ニ電信書記生ヲ配置セル處右ハ無電技術者ニ
對シ對外的必要上ヨリ電信書記生ノ名稱ヲ附シタルモノニシテ上記本年度ノ電信書
記生ハ專ラ電信發受ニ從事セシムヘキモノナリ

code officer,

telegraph operator,

(日本標準規格B5)

在米公使館の増員である。公使館に関する資料は昨年の官制改正資料参照。

昨年は市俄方に増員す。今年分はワシントン及紐育に増員する筈。

在米公館經濟部擴充ニ關スル件

書記生二增員

今次歐洲戰亂ノ歸趨ハ素ヨリ遽ニ豫斷ヲ許サザルモノアリト雖モ諸般ノ事情ヲ綜合スルニ英本土ノ獨側ニ陷ルベキハ略々推測ニ難カラザル所ニシテ結局英帝國ハ崩壞ノ運命ヲ辿リ少ク共世界經濟ニ於ケル英帝國ノ從來ノ地位卽チ國際金融、海運、保險各界ニ於ケル中心的地位、其他各種植民地產品殊ニ護謨、錫、金、銀等ノ中心市場トシテノ地位、各種カルテルノ中心タルノ地位ハ喪失乃至弱化セラレ再ビ之ヲ保持シ難キニ至ルモノト思考セラルルガ他方米國ハ最近愈々自國ノ對英援助工作ヲ積極化シ、同時ニ樞軸側諸國家ニ對シテハ經濟壓迫ヲ强化スルト共ニ從來世界經濟ニ於テ英國ノ占メ居リタル優越地位ヲ獲得スベク米國中心ノ經濟ブロックノ確立强化ニ狂奔シツツアリ。

斯ル情勢ニ鑑ミ我方トシテハ英國ノ國際經濟ニ於ケル地位ノ喪失弱化ヲ助長シ、東洋及南洋ニ存スル英自治領植民地及保護領ノ日本中

(日本標準規格B5)

心ブロックヘノ依存關係ノ增強ヲ圖ルト共ニ米國ノ意圖セル米國中心ブロックノ擴大強化ヲ極力防遏スルハ目下ノ緊急要事ナリ。仍テ此際書記生二名ヲ增員シ從來ノ在米公館經濟部ヲ更ニ擴充シ之ガ內部機構ノ整備、機能ノ增強ヲ圖リ以テ米國經濟ニ內在スル弱點、矛盾ヲ衝キ戰後ニ於ケル世界經濟情勢ノ變移ニ對處シ遺憾ナキヲ期セントス。

(日本標準規格B5)

仏印及蘭印ニハ其ニ未だ経済部大臣自身の為の増員なし。

六 在南洋公館經濟部擴充ニ關スル件

東亞共榮圈確立上南方地方ノ通商經濟上占ムル重要性ニ就テハ茲ニ絮說スルノ要ナキ處歐洲戰爭勃發ニ伴ヒ各國政府ノ採レル爲替管理輸出入制限等ノ諸措置ハ戰爭ノ東亞波及ノ可能性增大ト共ニ愈强化セラレ我輸出入貿易ハ異常ナル制約ヲ受クルニ至レル次第ナルカ他方泰佛印間國境紛爭モ我調停ニ依リ圓滿解決シ我東亞ニ於ケル地位ハ名實共ニ牢固トシテ拔クヘカラサルモノトナレリ茲ニ於テ前記諸措置ニ對處シ我商權ヲ擁護シ、戰時物資ノ確保ヲナスハ固ヨリ更ニ進ンテ此機會ニ我勢力ヲ南方地域ニ扶殖シ以テ强固ナル對南方政策ヲ遂行スルコト一日モ忽諸ニ付シ得サルニ付左記ノ通諸在外公館ノ機構ヲ整備充實シ以テ通商經濟機能强化ノ實ヲ擧ケントス

副領事五（河内バタヴィア 三二）

書記生四（河内バタヴィア 二二）

（日本標準規格B5）

七、在支民團民會行政刷新ニ關スル職員增置ノ件

在支邦人ノ激增ニ伴ヒ在支領事館ニ於ケル民團民會關係事務頓ニ繁忙トナリ來レル一方在留民ノ指導統制上民團民會ノ役割愈々重要性ヲ加ヘ來リ之カ運營ニ對シテハ大イニ積極的指導監督ヲ加フルノ要アリトセラルルモノナリ

依テ民團民會關係事務特ニ繁劇ニシテ重要ナル個所

主査參事官附記

現在總領事及領事（司法職員を除く）の定員一一二名中缺員一五名存在するを以て領事の增員は右補充完了迄差當り之を認めず、尤も右缺員の補充に此のポストを用ふることを認む。

書記生　八

北京、南京各二
濟南、青島、漢口
厦門各一

（日本標準規格B5）

17

記録

（第五課）邦人團體の社會的活動に対する

七、在支民團民會行政刷新ニ關スル職員增置ノ件

在支邦人ノ激增ニ伴ヒ在支領事館ニ於ケル民團民會關係事務頓ニ繁忙トナリ來レル一方在留民ノ指導統制上民團民會ノ役割愈々重要性ヲ加ヘ來リ之カ運營ニ對シテハ大イニ積極的指導監督ヲ加フルノ要切ナルモノアリ依テ民團民會關係事務特ニ繁劇ニシテ重要ナル個所ニ之カ增當職員ヲ左記ノ通增置セントスルモノナリ

領事　二（南京、北京各一）

副領事　二（張家口、上海各一）

書記生　八（北京、南京各二、濟南、青島、漢口、厦門各一）

（日本標準規格B5）

43,2

在支公館民團民會關係主要事務

一、民團、民會ノ細則ニ關スル事項
二、民團、民會ノ組織ニ關スル事項
三、民團、民會ノ事業ニ關スル事項
四、民團、民會ノ豫算ニ關スル事項
五、民團、民會ノ課金其ノ他收入ニ關スル事項
六、民團、民會ノ起債ニ關スル事項
七、民團、民會公務員ニ關スル事項
八、政府貸付金ニ關スル事項
九、大政翼贊運動ニ關スル事項
一〇、(神社ニ關スル事項)

外務省

(日本標準規格B5)

4313

一二、寺院宗教ニ關スル事項

一三、社會事業ニ關スル事項

一三、天然記念物ニ關スル事項

一四、民團、民會ノ會計經理監査ニ關スル事項

一五、民團、民會ノ政府貸付金處理ニ關スル事項

一六、民團、民會公務員ノ紀律査察ニ關スル事項

一七、民團、民會ノ財政調査ニ關スル事項

一八、民團、民會ノ施設調査ニ關スル事項

外務省

ハ在支領事館司法職員增置ニ關スル件

支那事變ヲ契期トシ在支邦人ノ人口ハ年々飛躍的增加ヲ遂ケ其ノ進出發展ノ狀況亦目醒シキモノアル所其ノ健全ナル發展ノ指導及保護取締ノ强化ハ我對支國策遂行上眞ニ刻下ノ急務ナリ

從來在支邦人ノ保護取締ニ關シテハ適用法規、領事館機構等ノ關係ヨリシテ行政ノ作用ニ偏重シ司法ノ作用ハ比較的閑却サレ來レル傾向ナルガ近來在支邦人ノ激增及其ノ取締强化ノ必要ノ增大ニ伴ヒ裁判、檢察ニ亘リ司法ノ作用ニ俟ツベキモノ頗ル多キヲ加ヘツツアルニ鑑ミ在支領事館ノ司法機構ノ增强モ亦當然且緊急ヲ要スル問題ナリ

一、裁判竝ニ非訟事務ニ從事スル司法領事及司法書記生ノ增置ノ必要

(1) 事變後在支邦人ノ人口竝ニ在支領事館ニ於ケル民、刑ノ司法事件ハ別添第三第四表ノ如キ激增振リヲ示シ此ノ傾向ハ上海、北京、天津、青島等ニ於テ顯著ナルモノアリ其ノ今後ニ於ケル激

(日本標準規格B5)

増モ豫想ニ難カラザル所ニシテ昭和十四年度ニ於ケル是等領事館ノ司法領事及司法書記生ノ負擔件數ハ別添第五乃至第七表ノ示ス如ク司法領事ハ内地裁判所判事一人ノ平均負擔件數ノ二倍乃至五倍ニ達シ司法書記生ハ内地裁判所書記ノ平均負擔件數ノ四倍乃至十三倍ニ達セル有様ニシテ其ノ負擔甚ダ過重ナリ

(2)

内地裁判所ニ在リテハ其ノ事務ヲ多數ノ部門ニ分チ夫々相當數ノ掛リ判事及書記ヲ置キ専門的ニ分擔處理セシメ居ルニ反シ領事館ニ在リテハ民刑ノ訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務竝ニ登記事務ニ關シ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行ヒ居ルニモ不拘是等ノ司法事務ハ一切司法領事及司法書記生ヲシテ處理セシメツツアリ從テ其ノ管掌事務ハ極メテ廣範圍且複雜多岐ニ亘ルノミナラス領事裁判ニ關シテハ法規適用上ノ疑義頗ル多ク而モ其ノ指導ニ關シテハ格別ナ施設モナキヲ以テ執務ノ實際ニ於ケル不便ト困難トハ局外者ノ豫想外ニ在リテ司法領事司法書記生ノ

事務ノ負擔ハ其ノ量ノ點ニ於テノミナラズ質ノ點ニ於テモ甚ダ過重ナル實狀ニ在リ

(3) 元來司法領事ヲ置キタル趣旨ハ單ニ訴訟及非訟事件ニ關スル事務ヲ行ハシムルニ止ラズ其ノ傍ラ支那側ノ司法制度一般法制竝ニ其ノ運用ノ狀況ヲモ調査セシメントスルニ在リ此ノ種ノ調査ハ治外法權撤廢ニ關シ重要ナル指針ヲ供スルモノトシテ其ノ必要ナルコトハ謂フ迄モナキ所治外法權ノ撤廢モ客年締結セラレタル日華基本條約ニ於テ規定セラレ我對支國策ノ不動ノ方針トシテ確定シタルニ鑑ミ右ノ調査ハ愈々其ノ必要アルニ至リタルモ司法領事ノ負擔ハ敍上ノ如ク甚ダ過重ナルヲ以テ斯ル調査ヲ行フ余力全ク存セザル有樣ナリ

(4) 北京、上海ハ政治、經濟上極メテ樞要ノ地ニシテ困難ナル司法事件最モ多ク領事裁判ニ關シテモ中樞ノ地ナリ而シテ右各地領事館ニハ夫々三名ノ裁判事務專掌ノ司法領事ヲ置ク豫定ナルト

コロ其ノ内一名ヲシテ事務ヲ監督統轄セシムル爲メ之ヲ總領事爲ノミナラズ全支ニ極メテ效果的ニシテ地位待遇トノ權衡フモ斟酌考慮シ左記記生八名ノ增員ヲ行

主査參事官附記・

從來總領事は館長以外の館員たる者は置かれなかつた・而して支那に於ける司法事務の多量、複雜且重要なるに鑑みて今回司法關係の事務を主として取扱ふものとして新に館長に非ざる總領事を置くこととした・尤も

(1) 司法總領事を勅任とすることは差當り必要なく（費用條例中改正の總領事在勤俸丙額を見れば原案者にも此の意圖なきは明白である）而も外交官領事官官制第四條但書と在外公館職員令第一條第三項とを對比すると原案の規定では理論上は之を勅任と爲すことも可能なるの結論に爲るので附箋修正の上「奏任總領事」と明規した・

(2) 館長に非ざる總領事は支那に於ける領事裁判事務の特殊性から特に認めた所であるから之を他の種の總領事に及ぼすことは贊成し難い・仍て將來之を司法職員以外に及ぼさんとする場合には單なる定員の差繰配置等の不明瞭なる方法を採ることなく必ず法制局に協議する旨外務省をして公約せしめた・（別添入江部長宛人事課長書信參照・）

（日本標準規格B5）

コロ其ノ内一名ヲシテ事務ヲ監督統轄セシムル爲メ之ヲ總領事トス爲スコトハ單ニ右各地ノ司法事務監督ノ爲ノミナラズ全支ニ於ケル領事裁判事務ヲ引締ムル上ニ於テモ極メテ效果的ニシテ上海ニ於ケル英國及米國ノ裁判所ノ裁判官ノ地位待遇トノ權衡上ヨリスルモ當然ノ措置ナリト謂フベシ

依テ別添第三乃至第七表ニ示ス各地ノ事情ヲモ斟酌考慮シ左記ノ通リ司法總領事二名司法領事一名司法書記生八名ノ增員ヲ行フコトト致度シ

記	司法總領事	司法領事	司法書記生
厚和			一
北京	一		二
天津		一	二
上海	一		二
上海門			一

三、檢察事務ニ從事スル司法領事及司法書記生ノ增員

(1) 檢察事務ニ關シテモ民、刑ノ訴訟事務及非訟事務ト同樣特殊專門ノ知識、技術及經驗ヲ必要トスルモノナルコトハ申ス迄モナキ所ナルガ從來領事裁判ニ在リテハ民、刑事ノ訴訟事務及非訟事務ニ關シテハ判事タル資格ヲ有スル者及裁判所書記タル資格ヲ有スル者ヲ夫々領事、書記生トシテ任用シ判事及裁判所書記ノ職務ヲ行ハシメツツアルモ檢察事務ニ關シテハ警察官ヲシテ

(日本標準規格B5)

檢事ノ職務ヲ行ハシムル建前ノ下ニ特ニ專門ノ檢察官ヲ置カズ最近僅ニ北京及上海ニ各一名宛ノ檢察司法領事及檢察司法書記生ヲ置キタルニ過ザル有樣ナリ

(2)

然レ共從來警察官ヲシテ檢事ノ職務ヲ行ハシメ專門ノ檢察官ヲ置カザリシハ領事裁判ノ最モ著シキ缺陷ヲ爲セル所ニシテ是等警察官ハ特ニ檢察ニ關スル訓練ヲ經タルモノニ非ズ檢察官トシテノ智識、敎養、經驗共ニ充分ナラズ嚴正ナル司法精神ニモ徹セズ刑事政策ニ對スル理解ニ至リテハ甚ダ乏シク爲ニ大惡ヲ逸シ小惡ニ對シ苛察ニ亘ルコト稀ナラズ、之ニ檢事ノ職務ヲ行ハシムルコトハ其ノ苛重キニ過グル嫌アルハ免レザル所ナリ殊ニ檢察事務ニ關シ指揮監督ノ權限ヲ有スル領事官ガ一般館務ノ多忙ナル爲又檢察事務ニ暗キ爲充分ナル指揮監督ヲ行ヒ得ザル實狀ニ在ルコトヲ想フトキハ右ノ感ハ一層深キモノアリ

(3)

事變以來在支邦人ハ前述ノ如ク激增ノ一途ヲ辿リ其ノ活動ノ旺

(日本標準規格B5)

盛トナルニ伴ヒ其ノ犯罪ハ急激ニ増加シ内容モ悪質且復雑トナル傾向顕著ナルモノアリ殊ニ現地ノ治安秩序未タ充分ナラザルニ乗シ或ハ事變下ニ於ケル特殊ナル經濟現象ヲ利用シ或ハ戰勝國タル優越感ヲ濫用シ或ハ又治外法權的特權ノ下ニ隱レ時局下ニ於ケル國策ニ反スル悪質犯罪ヲ敢行スル徒輩横行ノ徵著シモノアリ如斯徒輩ハ斷乎檢擧彈壓ノ要アルハ勿論ナルガ上述ノ如ク檢察官トシテノ條件ニ缺クルトコロ多キ警察官ヲシテ檢事ノ職務ヲ行ハシメツツアル現狀ニテハ到底多キヲ期待スルヲ得ス、客年出先軍ニ於テ軍律ヲ實施スルニ至リタルモ右ノ如キ事情ニ由リタルモノト思料セラルル次第ナルガ領事裁判ノ檢察陣ヲ强化スルコトハ我對支國策遂行上緊急ヲ要スル問題ナリ

(4) 事變後現地ニハ陸海軍ノ法務官、憲兵ガ駐在シ興亞院連絡部等ノ官廳モ設置セラレ辯護士等モ増加スルニ至リ領事館ノ檢事事務取扱ガ是等ノ方面ト直接間接ニ接觸シ其ノ批判ヲ受クル機會

外務省

(日本標準規格B5)

頻繁トナルニ至レリ然ルニ領事館ノ檢察ノ狀態ガ前述ノ如ク低調ナル爲自然之等ノ方面ヨリ批難攻擊ヲ蒙ムルコト多ク加之檢事事務取扱ガ右各方面ト職務上折衝ヲ行フ場合ニ於テモ其ノ實力モ官等モ劣ル爲是等ノ者ニ依テ輕ンゼラレ或ハ自ラ輕ンズル風見受ケラル斯クテハ事務遂行上モ支障ヲ來タシ領事裁判ノ威信ニモ關スルトコロナリ

(5) 更ニ近來外務省警察ノ急激ナル擴充ニ伴ヒ其ノ警察官吏ノ司法警察官吏トシテノ素質ノ低化ヲ招致シタルコトハ否ミ難キ所ニシテ之レガ教育訓練ノコトハ焦眉ノ問題ニシテ其ノ方策ニハ種々アルベシト雖モ內地ノ檢事ヲ司法領事トシテ任用シ檢察事務ヲ專掌セシムル傍ラ直接司法警察官吏ノ教育訓練ヲ爲サシムルヲ以テ最モ有效ナル方法ト爲スベシ

以上ノ次第ナルヲ以テ內地ノ優秀ナル檢事及書記ヲ夫々司法領事、司法書記生トシテ任用シ檢察ニ關スル事務ヲ專掌セシムルコトハ極

(日本標準規格B5)

メテ必要ナルトコロ此ノ檢察司法領事ト司法書記生ハ最近漸ク北京及上海ニ各一名宛置キタルニ過ギズ依テ今回ハ領事裁判ニ關スル檢察上重要ノ地タル天津及青島ニ右司法領事及司法書記生ヲ各一名宛置クコトト致シ度シ

外務省

（日本標準規格B5）

極秘

52.2

法制局外第三乙號
昭和十六年七月五日

人極祕第七六九號
昭和十六年七月四日

外務大臣官房人事課長

法制局第三部長　殿

在外公館費用條例附表中丙額適用ニ關スル件

昭和十六年六月十四日附會祕第六七四號ヲ以テ松岡外務大臣ヨリ近衛總理大臣宛請議セル在外公館費用條例中改正ノ件ニ關シ同附表中新設セル丙額ハ差當リ在支帝國總領事館ニ在勤スル司法總領事ニノミ適用スルコトト致スベク將來何等カノ必要ニ依リ在外帝國公館ニ右司法總領事以外ニ館長ニ非ザル總領事ヲ置キ右丙額ヲ支給セントスル場合ニ於テハ事前ニ御連絡申上グルコトト致スヘ

外務省

(日本標準規格B5)

52,3

キ二付右御承知置相成度

外務省

（日本標準規格B5）

53

定員令改正ニ付法制局ヘ提出ノ資料

條約局第二課

外務省

（日本標準規格B5）

第一表ノ一

在支司法職員定員（赤字ハ十六年度增加定員數）

館名	昭和十四年度人員 領事	昭和十四年度人員 書記生	昭和十五年度人員 領事	昭和十五年度人員 書記生	昭和十六年度豫算人員 總領事	昭和十六年度豫算人員 領事	昭和十六年度豫算人員 書記生
北京	一	一	三	三	一	三	三
天津	一	一	二	二		四	五
石門				一		二	三
太原				一			一
青島	一	一	一	一		二	二
張家口	一	一	一	一		一	一
厚和							一

（日本標準規格B5）

計	徐州	厦門	漢口	南京	上海	濟南
八			一	一	一	一
八			一	一	一	一
一三			一	一	三	一
一六	一		一	一	三	一
二二					一一	
一三六			一	一	三	一
一二〇六	一	一一	一	一	二三	一

外務省

（日本標準規格B5）

内譯。

56

第一表ノ二

在支司法職員（司法關係）定員（赤字ハ十六年度增加定員數）

館名	昭和十四年度人員				昭和十五年度人員				昭和十六年度豫算人員			
	領事	書記生	領事	書記生	領事	書記生	總領事	領事	書記生			
北京	一	一	二	二	二	二	一	二	二			
天津	一	一	二	二	二	二		三	四			
石門						一						
太原						一						
青島	一	一	一	一	一	一		一	一			
張家口	一	一	一	一	一	一		一	一			
厚和												
濟南	一	一	一	一	一	一		一	一			
上海	一	一	二	二	二	二	一	二	四			

外務省

（日本標準規格B5）

57

	南	漢	厦	徐	計
	京	口	門	州	
	一	一		八	
	一	一		八	
	一	一		一	
	一	一		四	一
				二	二
	一	一		一	二
	一	一		八	二

外務省

(日本標準規格B5)

内譯。

58

第一表ノ三

在支司法職員（檢察關係）定員（赤字八十六年度增加定員數）

館名	昭和十五年度人員 領事	昭和十五年度人員 書記生	昭和十六年度豫算人員 總領事	昭和十六年度豫算人員 領事	昭和十六年度豫算人員 書記生
北京	一	一		一	一
上海	一	一		一	一
天津				一	一
青島				一	一
計	二	二		四	四

（日本標準規格B5）

第二表

司法總領事、領事ヲ新ニ設置スヘキ北京、上海（總領事）、天津、青島（領事）ニ於ケル各管內邦人人口表

館名	昭和十二七一	昭和十五一一	昭和十六一一	事變前ト比較增加數
北京	四〇二四	五一九九五	八六一三七	八二一一三
上海	二六六一二	六五六二一	八〇五二四	五三九一二
天津	一三六五三	四六八三一	六二〇九二	四八四三九
青島	一六四六三	三一二五一	三五八五〇	一九三八七

第三表

司法領事駐在地ニ於ケル各管内邦人人口表

司法領事駐在館名	副領事駐在館名	同上兼勤地館名	昭和十二年末	昭和十五年末	昭和十六年末	事變前ト比較増加數
北京		石門	四〇二四	五一九九五	八六一三七	八二一一三
		當時開館セサリシモノナリ		一四二二五	二三一二三	
		太原	同	一八一四一	二四七八三	
上海	計		四〇二四	八四三六一	一三四〇四三	一三〇一九
		蘇州	二六六一二	六五六二一	八〇五二四	五三九一二
		杭州		八〇一	四五七七	四四九七
天津	計		五九一二二	二一二二	三五六〇	三一〇一
			二六七五一一	一七〇五四四	八八六一	六一九一〇
			一三六五三	四六八三一	六二〇九二	四八四三九

(日本標準規格B5)

	漢口計	濟南計	青島計
廣東			
山海關	三〇七八	一六七三一	一六四六三
芝罘	九八九	一七四五二	一六四六三
徐州	當時開館セラレシモノナリ	三〇五六	一七四五二
九江	八〇	一八一〇	三〇五六
	五八〇	一八九〇	一八一〇
	三六四	一六七〇	一八九〇
	一四六	一六七〇	一八九〇
	一四六	一六七〇	一八九〇
	一四六

| | | |

第四表

在支領事裁判事務統計（民、刑總件數）

司法總領事、同領事新設竝司法領事及司法書記生ヲ增員スベキ各館

館名	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
北京		民 五一 刑 三九	民 一六 刑 一五	民 三四 刑 二七
上海	民 二二七九 刑 一一五〇	民 一〇〇〇 刑 八二〇〇	民 三〇九八 刑 二八三七	民 三二八二 刑 二七三六
天津	民 一七二二 刑 一四八七	民 二九八五 刑 二六三六	民 四〇七四 刑 三五八一	民 四四二六 刑 三五八三
青島	民 二一一三 刑 二一六一	民 二〇六五 刑 二一四四	民 三七七三 刑 三八七三	
	四八	七九	一〇〇	

（五月開館）

（日本標準規格B5）

	厦門	厚和
	民二三 刑五四一 （八月迄）二〇三	
	民六 刑三八五 （六月以降）五	
	民二 刑一三八一 （五月開館） 民大 刑四四〇六	民二 刑四七〇三 六三九
	民二 刑七三 一七二五	

外務省

右ノ外司法領事駐在各館ノ民刑事總件數

館名	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
張家口	民 六 刑 二	民 五一 刑 二二	民 一四 刑 七八	民 ｜ 刑 ｜
濟南	民 七九 刑 五八	民 二二 刑 四四	民 三〇 刑 〇二	民 ｜ 刑 ｜
南京	｜	民 五一 刑 二一	民 一一 刑 三三	民 ｜ 刑 ｜
漢口	民 一七八 刑 一七五三	民 二二 刑 一一六	民 二二 刑 〇〇〇	民 一一 刑 四七四
廣東	｜	民 二三 刑 一一〇	民 三三 刑 一三九	民 八八 刑 九九九
	(八月迄)	(十一月以降)		

外務省

(日本標準規格B5)

第五表

内地裁判所ニ於ケル民刑事總件數ト判事定員トノ比較

（昭和十三年）

定員ニ對スル民刑事總件數一人割當件數　八一五

領事裁判地域ニ於ケル司法領事一名ニ對スル事件割當數

（昭和十四年）

館別	民刑事總件數	内地トノ比較
上海	三〇九八	内地ノ三倍半强
天津	四〇七四	内地ノ五倍
北京	一五四三	内地ノ二倍弱
青島	三八七三	内地ノ四倍半强
濟南	一三〇三	内地ノ一倍半强
南京	一三五	昭和十五年度ニ入リ裁判事務激增
廣東	一五八	シツツアリ本數字ハ比較ノ基礎ト
太原	六六	ナラズ
（三月開館）		

（日本標準規格B5）

第六表

内地裁判所ニ於ケル民刑事總件數ト書記定員トノ比較（昭和十三年）

定員ニ對スル民刑事總件數	領事裁判地域ニ於ケル司法書記生一名ニ對スル事件割當數（昭和十四年）	館名	民刑事總件數	内地トノ比較
一人割當件數	三一三	上海	三〇九八	内地ノ九倍半強
		天津	四〇七四	内地ノ十三倍
		青島	三八七三	内地ノ十二倍強
		北京	一五四三	内地ノ五倍弱
		濟南	一三〇三	内地ノ四倍強
		厦門	四〇九	内地ノ一倍半弱

（日本標準規格B5）

南廣太	
京東原	
一三五	
一五八	
六六	
各館共昭和十五年度ニ入リ裁判事務激増シツツアリ本數字ハ比較ノ基礎トナラズ	（三月開館）

（日本標準規格B5）

第七表

內地裁判所ニ於ケル判事一名ニ對スル書記ノ割合	一對三
領事裁判地域ニ於ケル司法領事一名ニ對スル司法書記生ノ割合	一對一

(日本標準規格B5)

東亞局第三課

「教育關係事務擔當職員增置（在支）

領事　二人（南京、北京）

調査員　二人（南京、北京）

主査參事官附記

現在總領事及領事（司法職員を除く）の定員一一二名中缺員一五名存在するを以て領事の增員は右補充完了迄差當り之を認めず、尤も右缺員の補充に此のポストを用ふることを認む。

事項ニシテ其ノ振當如何ハ大陸ニ於ケル國策ノ消長ノ影響ス邦人子弟ノ激增ニ伴フ學校經營ノ合理化ヲ圖リ教育內容ノ改善振作ヲ期スルノ要切ナルモノアリ依テ之カ指導監督ノ爲本務特ニ繁劇ニシテ重要ナル個所ニ之カ擔當職員ヲ增置セントスルモノナリ

錬成ニ關スル重要

（日本標準規格B5）

昭和二年度
教育關係事務擔當職員增置ノ件
（在支）
外務省

10

東亞局第三課

「教育關係事務擔當職員增置（在支）

領事　二人（南京、北京）

副領事　二人（南京、北京）

書記生　六人（南京、北京、濟南、石門）

理由

在支邦人子弟ノ教育ハ大陸ニ於ケル次代皇民ノ錬成ニ關スル重要事項ニシテ其ノ振當如何ハ大陸ニ於ケル國策ノ消長ノ影響ス邦人子弟ノ激增ニ伴フ學校經營ノ合理化ヲ圖リ教育內容ノ改善振作ヲ期スルノ要切ナルモノアリ依テ之カ指導監督ノ爲本省ニ特ニ繁劇ニシテ重要ナル個所ニ之カ擔當職員ヲ增置セントスルモノナリ

（日本標準規格B5）

71

在支公館教育關係主要事務

一、教育學藝ニ關スル事項
二、學事法規ニ關スル事項
三、教育人事ニ關スル事項
四、學校及幼稚園ニ關スル事項
五、教育費豫算ニ關スル事項
六、校舍ノ建築改造ニ關スル事項
七、學事ノ視察ニ關スル事項
八、教育ノ指導監督ニ關スル事項
九、社會教育ニ關スル事項
一〇、學校衛生ニ關スル事項

外務省

（日本標準規格B5）

72

一 學校體育ニ關スル事項

一 社會體育ニ關スル事項

外務省

(日本標準規格B5)

在支公館教育事務擔當職員表（豫算上）

公館	北京	天津	濟南	青島	石門	南京	上海	計
十四年度 領事	一						一	二
十四年度 書記生	一						一	二
十五年度 副領事		一		一				二
十五年度 書記生		一		一				二
十六年度 領事	一					一		二（視學一 官二人ヲ組替）
十六年度 副領事	一					一		二
十六年度 書記生	二		一		一	二		六（視學一 官二人ヲ組替）
計 領事	二					一	一	四
計 副領事	一	一				一		四
計 書記生	三	一	一	一	一	二	一	一〇
計 小計	六	二	一	二	一	四	二	一八

教育事務從事ノ職員ヲ配置スベキ領事館管下ノ教育狀況

管轄領事館	學校種別	學校數 十五年度	學校數 十六年度	學校數 十七年度	十五年四月現在 兒童生徒數	十五年四月現在 教員數	十六年四月現在 兒童生徒數	十六年四月現在 教員數	十七年四月現在 兒童生徒數	十七年四月現在 教員數
北京	國民學校	七	一一	一四	七〇〇〇	一九五	八八〇二	二三三	一一四五〇	二八九
	中等學校	五	九	一〇	二二七五	八五	三七七五	二〇六	五五〇〇	四五〇
	計	一二	二〇	二四	九二七五	二八〇	一二五七七	四三九	一六九五〇	五三四
天津	國民學校	九	一一	一二	五七九一	一六四	七七九八	二三二	九〇五五	二二一
	中等學校	六	八	一〇	二〇一六	二一	三〇四九	一八四	三九五〇	一二五
	計	一五	一九	二二	七八〇七	二八五	一〇八四七	四一六	一三〇五	四八三
濟南	國民學校	八	一一	一三	二二五八	七四	三〇四五	九四	三六四五	一四五〇
	中等學校	二	五	五	三七	二四	八二三	八一	一四五〇	九八
	計	一〇	一六	一八	二五九五	九九	二六八八	一七五	五〇九五	二〇八

南京	國民學校	六	七	七	七	三七	一一	四	一二	一二	一一
	中等學校	二	四	五	五	二四	一一	二	一四	一二	一一
	計	六	一〇	一二	一三	一〇四九一二	一一	四	一二	一一	一一
上海	國民學校	五	五	七	八	七三七一	一八	二	二四	一四	一八
	中等學校	二	五	四	五	二一四二	一一	一	二四	一二	一一
	計	七	九	一一	一一	一五四一	一二	一	二四	一四	一二
石門	國民學校	五	一〇	一一	一一	一三六九	一一	三	一一	一一	一一
	中等學校	二	五	四	五	一七二	一一	一	一一	一一	一一
	計	七	一五	一一	一一	一四一一	一一	一	一一	一一	一一
青島	國民學校	六	七	七	七	三七四九	一一	二	一一	一一	一一
	中等學校	六	七	七	七	二七四八	一一	二	一一	一一	一一
	計	一二	一四	一四	一四	六四八一	二二	四	三三	三三	二三

76

調査官等定員現員表（昭和一六、七、八）

	定員	現員	欠員	
調査官	一〇	八	二	外務省ニ於テ銓衡手続中。
理事官	二〇	九	一	
電信官	一三	一一	二	最近副領事ニ転官シタル所位国ノ大使不在ト為リ到ノ為後任ノ交大使館電信官ト交流ヲ行ハシムル為最近三名ノ欠員ヲ生ジ居レルモ近日補充ノ見込確実。
技師	三	二	一	
技官	二〇	一九	一	目下銓衡手続中。
屬				
技手	六	五	一	
電信官補	一八	一八	〇	

（日本標準規格B5）

77

一、定員現員表

	定員	現員	欠員
特命全權公使			
大使館參事官	三四	三二	二
〃 商務參事官			
總領事	一一二	九七	一五
領事			
副領事	八九	八八	一
大使館電信官	九	九	〇
書記生	四八七	四七一	一六
通譯生			
電信書記生			
司法領事	一三	一三	〇
〃 司法書記生	一六	一六	〇

ヴェネズエラ等目下ノ事情ヨリ見テ急速ニ人員ヲ充実ヲ行ヒ得ザル公館ノ分ナレモ情勢ノ変化ヲ見テ何時補充サルベカラザルヤモ知レズ。

外務省

（日本標準規格B5）

78

三、外務部内臨時職員設置制

第四條中ノ「副領事」ノ配置先

サンパウロ　一

外務省

（日本標準規格B5）

参照

●外務省官制

明治三十一年十月二十二日
勅令第二百五十八號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

第十一條ノ二　外務省ニ調査官專任六人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ調査ヲ掌ル

第十二條　外務省ニ外務事務官專任[illegible]人及外務理事官專任二十[illegible]人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十四條　外務省ニ電信官專任十三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ電信符號ニ關スル事項ヲ掌ル

第十四條ノ二　外務省ニ編修官專任二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ外交史實ニ關スル資料ノ編修ヲ掌ル

第十五條　外務省ニ技師專任三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十六條　外務屬ノ定員ハ專任二百[illegible]人トス

第十七條ノ二　外務省ニ電信官補專任十八人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ電信符號ニ關スル事務ニ從事ス

第十八條　外務省ニ技手專任十六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ電信、建築其ノ他技術ニ從事ス

參照

●外務部內臨時職員設置制

昭和三年五月二日
勅令第七十八號

改正 昭和四年第十九七號、七年第一七五號、第三三五號、八年第一〇六號、九年第一號、第一四五號、一〇年第二三〇號、一一年第二四〇號、第三二〇號、第四五三號、一二年第二五六號、第五五七號、第六七九號、一三年第四號、第一二八號、第二七二號、第四六五號、第七六一號、一四年第一四一號、第四六一號、第八〇九號、一五年第七五五號、第八五〇號

朕昭和二年勅令第百八十九號外務部內臨時職員設置ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

第四條　外國ニ於テ主トシテ教育ニ關スル事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

副領事　　專任一人
書記生　　專任三人

参照、

●在外公館職員定員令

明治三十二年六月二十日
勅令第二百八十一號

朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

在外公館職員定員令

第一條　外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ノ定員左ノ如シ

一　特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辨理公使ハ通シテ三十五人

二　大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ九十七人

三　總領事、領事及貿易事務官ハ通シテ百十二人

四　大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ二十四人

五　大使館理事官及公使館理事官ハ通シテ十五人

六　大使館電信官及公使館電信官ハ通シテ九人

七　副領事ハ八十七人

八　外交官補及領事官補ハ通シテ六十一人

九　外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ハ通シテ四百八十七人

前項定員ノ外訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務竝登記事務ニ從事セシムル爲領事、副領事ヲ通シテ十三人及外務書記生十六人ヲ置ク

外交官領事官ヲ兼任シ又ハ領事官外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼任ハ定員ノ内ニ算入セス

大日本帝國政府

	外務書記生	
(一)	昭和十六年ニ新規增加人員	八人
	領事ニ組織ヘタル分	三
	計	一
	內 留保分（セブ分館設置可能迄）	一
	差引 今回增加人員	一
(二)	領事ニ組織ヘタル事項左ノ如シ	
	直南經濟機能強化ニ關スル經費ノ內 バタヴィア分	一人
	在外公館ニ技術官配置ニ要スル經費ノ內 バタヴィア及河內分	二
	計	三
昭和十六年七月廿日大藏省主計局豫算課外務係齋藤屬ヨリ接到		

（國定規格B5 一八三×三五七粍）

極秘

人極秘第八四六號

昭和十六年七月二十三日

外務大臣　豊田貞次郎

内閣總理大臣　公爵近衛文麿殿

勅令案既定方針通リ手續進行方ニ關スル件

曩ニ松岡前外務大臣ヨリ六月七日附人極秘第六四號ヲ以テ外務省官制中改正ノ件外三件並六月十四日附會秘第六七四號ヲ以テ在外公館費用條例中改正ノ件及請議候處右ハ特ニ急ヲ要スル次第ニモ有之候間此際既定方針通リ其儘引續キ御手續相進メラレ度此段申進候也

外務省

外甲第一〇〇號

起案	閣議決定	施行
昭和十六年八月七日	昭和十六年八月八日	昭和十六年八月八日 指令
裁可 昭和 年 月 日		

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	海軍大臣	厚生大臣
内務大臣	司法大臣	商工大臣
大藏大臣	文部大臣	鐵道大臣
陸軍大臣	農林大臣	拓務大臣
		鈴木國務大臣

別紙外務大臣請議

佛印ニ於ケル帝國現地機関在

勤員ニ関スル件

右閣議ニ供ス

指令案

佛印ニ於ケル帝國現地機關在勤員ニ関スル件請議ノ通

通牒案

昭和十六年八月八日

内閣書記官長

大藏、陸軍、海軍、農林、商工、拓務各大臣

宛（各通）

法制局長官

興亞院總裁

企畫院總裁

佛印ニ於ケル帝國現地機關在勤員ニ關

入ル件別紙ノ通閣議決定相成候條
依命此段及通牒候

極秘

南二極祕第九〇一號

昭和十六年八月七日

外務大臣　豊田貞次郎

別紙添附

内閣總理大臣　公爵近衛文麿殿

佛印ニ於ケル帝國現地機關在勤員ニ關スル件

佛領印度支那ニ於ケル新事態ニ對處シ帝國ノ施策ヲシテ萬遺憾ナカラシムル爲ニハ政務經濟等ノ分野ニ於テ關係各廳ヨリ適宜關係官吏ヲ現地ニ派遣駐在セシムル等積極的ニ帝國外交機關ニ協力セシムル事最モ必要ナルト共ニ、右官吏ハ七月二十二日閣議ニ於テ

外務省

決定セラレタル「佛印ニ於ケル現地機關ノ整備ニ關スル件」ノ趣旨ニ基キ凡テ外務專任官トシ職務上ノミナラズ、身分上ニ於テモ之ヲ一元的ニ統率スルコト緊要ナルニ鑑ミ本件ニ關シ別添「佛印ニ於ケル現地機關在勤員ニ關スル件」閣議決定ヲ得度此段説明及七月二十二日閣議決定ノ「佛印ニ於ケル現地機關ノ整備ニ關スル件」相添へ及請議候也

外務省

極秘

佛印ニ於ケル現地機關在勤員ニ關スル件

（昭和十六年八月八日
閣議決定案）

佛印ニ於ケル新事態ニ即應スル爲政務經濟ノ分野ニ於テ關係各廳ニ於テモ積極的協力ヲ爲シ殊ニ適宜關係官吏ヲ現地ニ派遣駐在セシムルト共ニ、右官吏ハ七月二十二日閣議ニ於テ決定ヲ見タル「佛印ニ於ケル現地機關ノ整備ニ關スル件」ノ趣旨ニ鑑ミ凡テ外務省專任官トスルモノトス

說明

佛印ニ於ケル新事態ニ即應シ現地ニ於テ外交機關カ強力且一元的ニ政治經濟ノ施策特ニ我國トシテ重視スベキ資源開發、貿易、交通、金融等諸般ノ實踐的經濟施策ヲ實施スル爲ニハ從來ノ外務省出先機關ノミヲ以テシテハ其ノ完璧ヲ期シ難ク各關係官廳ノ協力ヲ得ルコト就中、關係廳ヨリ關係官吏ヲ佛印ニ派遣シ現地外交機關ノ一部ヲ構成セシムルコト必要ナリ然ル處之等外部機關カ從來他地方ニ見ル如ク直接間接ニ外務機關以外ノ指揮命令ヲ受クルノ狀態ハ現地外交機關ノ統一、一元化ヲ紊シ强力ナル施策ノ實施ヲ害スル虞アルヲ以テ爾今外務系統以外ノ各廳駐在員ハ認メズ凡テ之等人員ヲ外務省專任官トシ（陸海軍人ヲ除ク）職務上ノミナラス身分上ニ於テモ外務大臣ノ指揮監督ノ下ニ統制スル事緊要ナリ

IMT-669

佛印ニ於ケル現地機關ノ整備ニ關スル件　昭和一六、七、二二
閣議決定

時局處理上皇國南方政策ノ重要基地ノ一タル佛印ニ於ケル重要國防資源ヲ急速且全幅的ニ活用スルコト絶對ニ必要ナルニ鑑ミ政務、經濟等ニ關スル諸施策ヲ強力且一元的ニ管掌スル現地機關ヲ設置シ且中央ニ於テ一元的ニ之ヲ指揮監督ス

該機關ハ駐屯部隊ト緊密ナル連絡ノ下ニ其任務ヲ遂行スルモノトス

佛印ニ於ケル現地機關整備ニ關スル件ノ説明事項

佛印ハ其地位、資源及現在實施中ノ諸工作ノ成果等ヲ勘案シ皇國南方政策ノ重要ナル前進基地ノ一ナルヲ以テ佛印ニ對シテハ軍事、政略、經濟、等ノ諸施策ヲ强化實施スルハ皇國ノ直面スル重要國策ニシテ特ニ時局處理上皇國ノ必要トスル重要國防資源ヲ確保シ急速且全幅的ニ之ヲ活用スルコト絶對ニ必要ナリ

目下佛印ニハ皇軍進駐シアリト雖皇國ハ佛印ノ主權、領土ハ之ヲ尊重スル方針ニシテ又皇國ノ要望スル經濟發展ニ關シ短期間ニ實效ヲ收メントセバ寧ロ現佛印政廳ノ權能ヲ利用スルヲ適切ト認ムルヲ以テ皇國ノ諸施策ハ之ニ照應シ實施スルノ要アリ

此ノ見地ヨリ「佛印ニ於ケル皇國ノ現地機關ハ駐屯部隊ノ間接的壓力ヲ背景トシツツ表面上ハ飽ク迄外交機關タルコトヲ要スベシ仍テ現地機關ハ外交機關トシ該機關ヲシテ狹義ノ外交ノミナラス更ニ一般政務及經濟、特ニ皇國トシテ重視スベキ資源開發、貿易、交通、

金融等諸般ノ實踐的經濟施策ヲ擧ゲテ盡ク一元的ニ綜合管掌セシメ中央ニ於テ該機關ヲ一元的ニ指揮監督シ中央ノ定ムル方策ニ順應シテ現地ニ於テ活潑ナル活動ヲ行ハシムルモノトス

該機關ハ駐屯部隊ト緊密ナル連絡ノ下ニ其任務ヲ遂行スルモノトシ駐屯部隊ノ任務遂行上必要ナル諸般ノ事項ニ關シテハ積極的ニ之ニ協力スルト共ニ駐屯部隊ハ特ニ政務、經濟關係ノ機關ハ之ヲ設置セス又澄田機關ニ於ケル政務經濟關係事項モ之ヲ該機關ニ移管スル等ノ措置ヲ講ズルモノトス（昭和一六、六、二七閣議決定佛印經濟調査計畫要綱別紙備考(二)關聯事項）

斯ノ如クニシテ佛印ニ於テハ其特殊性ニ鑑ミ駐屯部隊及該機關ハ其ノ二大機能ノ有機的緊密ナル連絡ニ依リ皇國ノ要請スル綜合效果ヲ最高度ニ發揚セントスルモノナリ

外甲一〇五

昭和十六年八月二十八日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣	海軍大臣	商工大臣	厚生大臣
内務大臣	司法大臣	遞信大臣	平沼國務大臣
大藏大臣	文部大臣	鐵道大臣	柳川國務大臣
陸軍大臣	農林大臣	拓務大臣	鈴木國務大臣

別紙外務大臣請議支那事變被害調査委員會官

法制局

制廢止及領事裁判委員會官制廢止請議閣スル件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

別紙安案附箋ノ通

秘

外務大臣 四乙號

昭和十九年九月廿七日

主任者、條約局第二課長

條二祕第九四〇號

昭和十六年八月二十六日

外務大臣 豊田貞次郎

内閣總理大臣 公爵近衛文麿殿

支那事變被害調査委員會官制廢止請議ニ關スル件

昭和十三年勅令第二百九十六號支那事變被害調査委員會官制廢止ノ爲勅令ヲ制定スルコトト致度別紙勅令案閣議ニ提出致候間公布方可然御取計相成樣致度此段及請議候也

外務省

16.8.

書文

(日本標準規格B5)

朕支那事變被害調査委員會官制及領事裁判委員ヲ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十六年九月二日

内閣總理大臣

外務大臣

勅令第八百三十九號

支那事變被害調査委員會官制ハ之ヲ廢止ス

附則

外務省